

# 帝京大学医学部附属病院

## 1. 最先端の高度医療を担う

「特定機能病院」

医療法に基づき、高度医療の提供や  
研修実施能力を備えた病院として、  
厚生労働省が承認する病院

## 2. がん医療の拠点

「地域がん診療連携拠点病院」

## 3. 救急医療の拠点

「救命救急センター」

「総合周産期母子医療センター」

「災害時の拠点病院」

# 大学病院と特定機能病院の違い

一般病院

医療の提供  
(業務)

教育

研究

大学病院

特定機能病院

大学病院として、  
「業務・教育・研究」の3本柱 &  
特定機能病院として、  
高度先端医療行為を提供する病院



高度医療に対応する  
臨床現場教育



高度救命救急センター  
(第3次救急)



手術支援ロボット  
(ダ・ヴィンチ)





# 帝京大学医学部附属病院

「特定機能病院」  
‘最先端の高度医療を担う’



全病棟に  
薬剤師を  
配置



## 薬剤部

常勤薬剤師数77名  
パート薬剤師1名  
非常勤事務パート5名  
SPD3名



# 薬剤部組織の概要

(2025年2月1日現在)

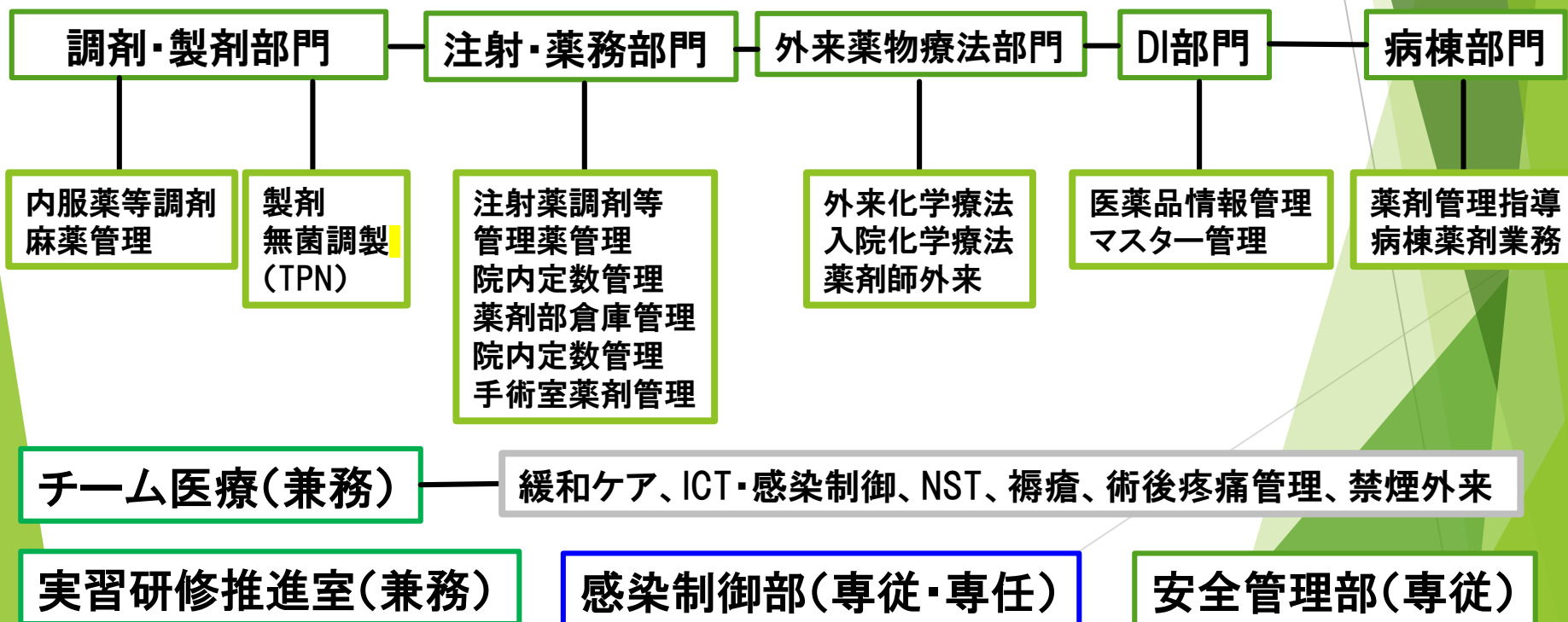
●薬剤師数； 77名（病院職員74名、大学教員3名、+非常勤職員1名）

●事務職員； 5名

●SPD； 3名

●薬剤部内の部門紹介

薬剤部長1名  
副部長2名



# 薬剤部門の専門認定

## ■ 施設認定

- 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修認定施設
- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会地域薬学ケア専門研修施設（基幹施設）
- 日本臨床腫瘍薬学会がん診療病院連携研修病院
- 栄養サポートチーム（NST）専門療法士認定教育施設

## ■ 専門・認定薬剤師 等（一部）

- |                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| ● 日本医療薬学会 がん指導薬剤師                    | 1名  |
| ● 日本医療薬学会 がん専門薬剤師                    | 2名  |
| ● 日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師                 | 2名  |
| ● 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師               | 7名  |
| ● 日本医療薬学会医療薬学指導薬剤師                   | 4名  |
| ● 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師                   | 6名  |
| ● ICD制度協議会（infection control doctor） | 1名  |
| ● 日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師                  | 1名  |
| ● 日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士            | 4名  |
| ● 日本DMAT隊員                           | 2名  |
| ● 日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師                  | 6名  |
| ● 日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト           | 11名 |
| ● 日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師                | 23名 |
| ● クニカル・トキシコロジスト                      | 1名  |
| ● 高血圧・循環器病予防療養指導士                    | 1名  |
| ● 心不全療養指導士                           | 1名  |
| ● 国立がん研究センター レジデント研修プログラム修了者         | 2名  |
| ● 国立循環器病研究センターレジデント研修プログラム修了者        | 1名  |

# 薬剤部の基盤業務、病棟・外来業務 および医療チーム





# 薬剤部門の主な業務

## 1) 調剤・製剤業務

内服調剤（1F）、注射調剤（B1F）



## 2) 抗がん剤調製業務 薬剤師外来



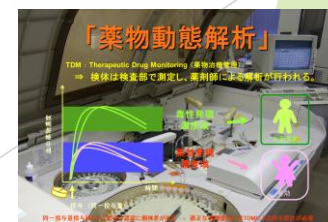
## 3) 薬剤管理指導業務

## 4) 医薬品情報の管理 (DI)



## 5) 医薬品管理・供給 (薬務)

## 6) 薬物動態解析 (TDM)



# 処方に対する薬学的介入の基本項目

## ① 薬歴管理による**処方薬・処方量**の確認

⇒ 薬学的介入の基本

## ② 薬物動態・作用機序を考慮した**投与量**の確認

⇒ **腎機能・肝機能**等の検査値を評価

## ③ 薬学的（臨床薬理学的）判断による**処方内容**の確認

⇒ **相互作用・有用性**を勘案した情報提供

## ④ 薬剤投与後、患者の症状を**モニタリング**

⇒ **有害事象**を医師へフィードバック



# 新入職員配属ローテーション

全体ガイダンス

調剤室・麻薬室

医薬品管理室、注射調剤

外来化学療法室、感染制御部

医薬品情報室、薬務室

病棟（一般病棟、集中治療病棟）

チーム医療（緩和ケア・NST・ICT）



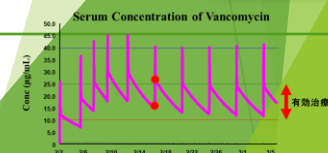
原則、2年計画で中央部門のローテーションを実施

# 初級研修コース（入職1年目）



| 内容                                                                                                                                                | 日程      | 備考   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|
| <b>採用医薬品研修・同種・同効薬研修</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>主にハイリスク薬に関する基本的な知識を身にける</li> <li>頻用される薬効群における同種・同効薬の特徴や使い分けに関する知識を身につける</li> </ul> | 6月～10月  | 全43回 |
| <b>がん化学療法研修</b><br>がん化学療法における薬剤師業務に必要な基本的な知識を身にける                                                                                                 | 11月～12月 | 全9回  |
| <b>抗菌薬研修</b><br>抗菌化学療法に関する基本的な知識を身にける                                                                                                             | 1月～2月   | 全13回 |
| <b>TDM研修</b><br>抗菌薬のTDMを実施するための知識を身につける                                                                                                           | 3月      | 全5回  |

参考書使用  
試験実施



# 薬剤部の職員教育・研修

## 初級研修（1～2年目）

採用直後

採用1～4カ月

採用1年後

採用2年後以降

### 新任者研修

薬剤部の業務全体を体系的に紹介

### 基礎研修（1）

社会人としての基礎、6年制薬剤師としての実践力の強化

### 基礎研修（2）

### OJT研修

先輩薬剤師等によるきめ細かな指導

### 病棟・チーム医療研修

他職種と連携や院内システムを理解するための実施研修

### 特別研修、帝京3病院研修会

様々な領域の専門家を招いて、最新の薬物治療や薬剤師業務を議論

### 国内派遣研修

教育・研修プログラムに派遣

### 学会参加・発表

学術集会や専門学会への積極的な参加・発表

### 現場見学

院内他部門や他の医療機関の見学・研修



OJT（On-The-Job Training）  
実際の職務現場において、業務を通して行う教育訓練



# 初級研修カリキュラムの考え方

研修医と薬剤師の研修（初期2年間）



医師の視点と薬剤師の視点の  
両方から症例検討

STEP3

**重点項目(専門性)**

救急薬物療法、がん薬物療法、感染制御、緩和医療など専門認定の取得

STEP2

**臨床実践能力(知識・技能)**

薬剤師としての基礎

院内採用薬、過誤事例、同種同効薬など

STEP1

**社会人としての基礎力(態度)**

患者接遇、社会人マナー、コミュニケーション力

# 「薬剤師卒後教育研修プログラム」

大学病院改革プランの中においても、現在の多様かつ高度な医療人の養成に向けて、大学病院が積極的に研修機会を提供し、協力していくことが重要視されている中で、臨床研修や専門研修等に係る研修プログラムの充実として、薬剤師卒後教育研修プログラムを作成した。

2023 年度

帝京大学薬学部・

医学部附属病院薬剤部

卒後教育研修プログラム

帝京大学医学部附属病院  
薬剤部

## 目 次

1. 心構え・関係法規
2. 病院の概要
3. 薬剤部の概要
4. 内服調剤
5. 注射調剤
6. 注射薬混合調製（TPN）
7. 院内製剤
8. 法的管理が必要な薬剤（麻薬、向精神薬など）
9. 医薬品情報（DI）
10. 病棟
11. 薬務室
12. がん化学療法
13. 緩和ケア
14. 薬物濃度測定（TDM、急性薬物中毒）
15. 感染制御
16. 安全管理
17. 薬薬連携

# 「薬剤師卒後教育研修プログラム」

研修のポイント  
からはじまり、  
各部門の業務内  
容について解説

### ＜研修のポイント＞<sup>4)</sup>

- ・ 薬剤部の組織・構成を把握する。+
- ・ 薬剤部の業務部門を把握する。+

## 1. 薬剤部の組織と構成

業務内容で系統的に分けた場合は図1の通り。<sup>4)</sup>



図 1. 葉剖部組織図←

## 藥劑部部門+

- ③ 外來藥物療法部門：外來化學療法、入院化學療法、

〈研修のポイント〉

- ・ 医師の処方から薬剤部で処方箋が受付されるまでの流れ
  - ・ 処方箋受付から薬剤監査までの流れを理解する。\*
- ※この章では当院での実際を織り交ぜて記載した。\*

### 1. 内服調剤室のレイアウト

当院の内服調剤室は1階に配置されている。詳細なレイアウトは図

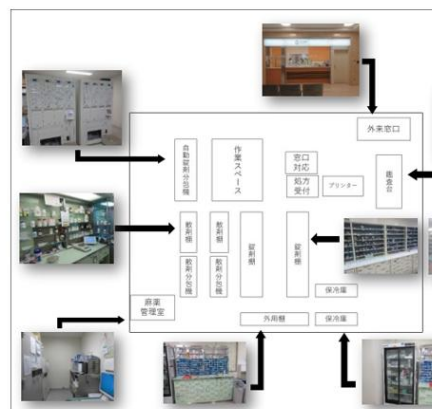


図1. 内服調剤室のレイアウト。

3. 抗がん剤。

- (1) 抗がん剤とは、  
抗がん剤とはがん細胞に作用し、がん細胞の増殖・進行を抑える薬剤である。

- (2) 抗がん剤の種類。  
2022年10月現在、抗がん剤には、「細胞障害性抗がん剤」「内分泌療法薬（ホルモン療法薬）」「分子標的薬（小分子化合物、抗体薬）」等がある（図1）。

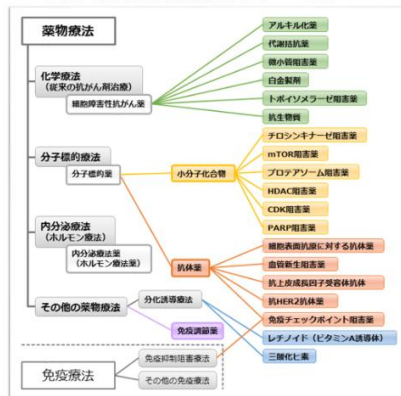


図1. 抗がん剤の種類。

(1) 院内製剤の分類

院内製剤の分類の原則は次のとおり（表1）。<sup>4)</sup>

表 1. 院内製剤の分類 (クラス) <sup>a</sup>

| 分類<br>(クラス) | ①                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Ⅰ           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品又はこれらを原料として調製した製剤を、並て、薬機法の承認範囲（効能、効果、用法及び用量）にあて、人体への侵襲性が大きいと考えられるもの</li> <li>・試薬、生体成分（血・血清・血小板等）、薬機法で承認されたものを原料として調製した 製剤を治験又は診断（生体成分を原料とする場合は、患者本人の生体成分を使用する場合に限る。）</li> </ul> |
| Ⅱ           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品又はこれらを原料として調製した製剤を、並て薬機法の承認範囲（効能、効果、用法及び用量）にあて、人体への侵襲性が比較的低いもの</li> <li>・試薬、生体成分でないものを原料として調製した製剤とするが、治験又は診断目的ではないもの</li> </ul>                                                 |
| Ⅲ           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品を原料として調製した製剤を、治験又は診断承認範囲（効能、効果、用法及び用量）内で使用する</li> <li>・試薬又は医薬品でないものを原料として調製したものを対象としないもの</li> </ul>                                                                             |

### ＜クラス分類の例＞

クラスⅠ：注射剤など人体への侵襲性が大きい場合 主薬として試薬等を治療・診断目的で製剤する場合<sup>レ</sup>

クラスⅡ：承認された投与経路の変更（例：注射→内服）治療・診断目的ではない場合（手術時マーキング用等） 原材料とする医薬品に添加剤等を加えて打錠する場合

局方品を治療・診断目的で、適用範囲外で製剤化する場合 ㉔  
 クラスⅢ：調剤の準備行為として２種以上の医薬品を混合予製する場合（例：軟膏の混合、  
 散剤の希釈、消毒剤の希釈など）、医薬品をカプセルに充填する場合、局方品の

② 退院時要領情報管理指導料。

退院時薬剤管理指導料の算定件数(2022年11月~2023年1月)を図2に示した。<sup>4)</sup>

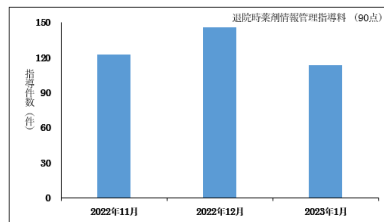


図2. 退院時薬剤情報管理指導料算定件数(2022年11月~2023年1月)※

退院時薬剤管理指導は130件/月前後で推移している。

③ 麻業管理指導加算<sup>e)</sup>

麻薬管理指導加算の算定件数（2022年11月～2023年1月）を図3に示した。<sup>4)</sup>

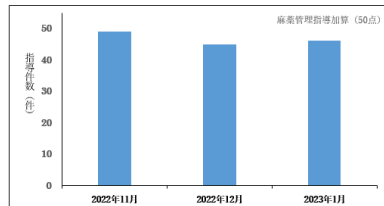


図3. 麻薬管理指導加算算定件数（2022年11月～2023年1月）。

指導加算は45件/月前後で推移している。<sup>4)</sup>